6～7歳の交通事故なくそう

交通安全教育プログラムを作成

生駒ロータリークラブ

生駒ロータリークラブは2018－2019年度の奉仕事業として、6歳～7歳の交通事故をなくすために、交通心理学からのアプローチを取り入れた交通安全教育プログラム「ITSmoaEL　いつも会える笑顔」を作成し、広く有効利用を促進することを目的として活動を企画・実施してきた。そして去る10月9日、同プログラムの説明と9月13日に生駒市立東小学校で開催した交通安全教室の模様の報告、学校・地域・家庭において交通安全を学ぶための専用テキストブック「みぎみて　ひだりみて　みぎみて」、自転車用ヘルメット、交通安全教室用パネルの寄贈式が生駒市役所で行われた。

■生駒市に贈呈

冒頭、川上泰秀・生駒ロータリークラブ会長が「ロータリークラブとしては、交通安全教育の普及啓発を2018－2019年の一番大きな奉仕活動と位置づけて取り組んできました。小学校1年生から2年生の将来を担う子どもたちが交通事故から身を守ることができるようにという思いで、東小学校で実際に交通安全教育にも取り組みました。この活動を市内全域をはじめもう少し浸透を図っていきたいと思います」とあいさつした。続いて寄贈目録が小紫雅史市長に手渡された。

寄贈の趣旨について中谷裕二良同クラブ奉仕プロジェクト委員長が述べた。

寄贈を受けて小紫雅史・生駒市長は「生駒ロータリークラブの皆さん、山口先生ならびに生駒署長さんに改めて感謝します。春になって小学校1年生が新しく入学すると、子どもたちは自分で初めて学校に行くようになります。しかし小学校1年生が歩行中に交通事故に遭う件数は小学校6年生の3倍以上、死亡事故は8倍になるという警察庁の分析が発表されていました。このことを見ますと、6歳から7歳の子どもに対象を絞った専門的な知見に基づく交通安全教育は重要であり、このプログラムが取り組まれていることに心から感謝します。生駒市は交通事故死者0が続いた年もありました。今後は交通安全環境の整備に引き続き取り組んでいきたいと思います」と謝辞を述べた。

川上泰秀・生駒ロータリークラブ会長（右）から小紫雅史・生駒市長へ寄贈する様子＝10月9日、生駒市東新町の生駒市役所

教育読本などを寄贈

モデル小学校で教室

■交通安全教育プログラム

その後、中谷委員長が交通安全教育プログラムについて次のように説明した。

「子どもたちの毎日は好奇心の塊です。触れるもの、見るもの、聴くもの、すべてが新しい発見であり、心が躍り、衝動的な行動が見られます。毎日の遊びが人間としての成長に結びついています。現代社会では『道路』を通らずに生活範囲を移動させることができません。しかし『道路』は多くの車が走り危険な場所であります。交通ルールを守っていれば危険がないとは言えません。自らが危険を察知し、安全に通行することを知ることはとても重要です。ドライバーも歩行者もそれぞれの特性を知り、お互いの行動を予測することは、重大事故を防ぐうえで最も大切な能力です。ドライバーの目線、車の特性、子どもの交通行動の理解、地域社会で暮らす人々が学び、交通安全をより確かなものにするための交通安全教育プログラムを企画・立案しました。

これは6～7歳の交通事故をなくすために、交通心理学からのアプローチを取り入れた交通安全教育プログラムです。

まずモデル校において、実際に交通安全教室の企画・実施を行いました。すなわち9月13日、東小学校において行い、子どもや大人合わせて約160人が参加しました。児童を対象とした教室では、同校と市立なばた幼稚園の園児110人が参加し、車道と歩道の違いや自動車の走る方向などについて生駒署員から説明を受け、練習用の信号機2基を使って交差点や踏切の横断方法について学びました。また大人を対象に、山口直範・大阪国際大学教授がスライドを使いながら、大人と子どもの視野の違いなどについて話しました。

次に交通安全読本『ITSmoaEL　いつも会える笑顔　みぎみて　ひだりみて　みぎみて』の制作・配布です。この読本は3000部制作し、生駒の小学校1年生、年長組の園児に配布します。

本活動は、今回お集まりいただいた関係各位の他、生駒交通㈱様、奈良交通㈱様、奈良近鉄タクシー㈱様、ロータリー財団の後援・協力を得て実施できた事に感謝を申し上げます」

交通安全教育プログラムに参加する生駒市立東小学校児童と同市立なばた幼稚園の園児＝９月13日、生駒市立東小学校

■東小学校で交通安全教室

また乾賀世子・生駒ロータリークラブ幹事は「この交通安全プログラムは、山口教授が交通心理学の学識経験を生かして携わっていただいたことに大きな意義があります。今後は市内にある12小学校から中学校まで、広く広めていきたいと考えいます」と述べた。続いて金田実・生駒警察署長は「署長として月1回、交通巡視に立ち、子どもたちに声をかけています。この子どもたちを絶対に守る必要があります。9月13日に東小学校で行った交通安全教室は、マスコミが大きく報道するなど、大きな反響がありました。親と子の双方が交通安全について学んだことはたいへん意義があると思います」。中島裕幸・東小学校校長は「交通安全教室を開催すると、子どもたちが楽しく学んでいました。このことは、交通安全の大切さを学んでくれたことと思います。常に命の大切さと、命は自分で守らなければならないことを話しています。そのことをしっかりと心得て生活してくれればと願っています」。吉尾典子・なばた幼稚園長は「保護者の方々が真剣に受講しておられました。避難訓練などでいつも『自分の命は自分で守る』ことを伝えています。しかし子どもたちだけでは限界がありますので、大人がしっかりと伝えていくことが大切です」。中田好昭・生駒市教育長は「小学校1年生の視点で交通安全を考えるこのプログラムは画期的で、目からウロコでした」と、それぞれ述べました。

最後に山口直範・大阪国際大学教授は「6歳から7歳の交通事故が多いことに着目し、安全教育に取り組まれた生駒ロータリーの活動は評価できます。小学校1年生はもちろんですが、幼稚園でも教材を配布していただいて、交通安全を身につけて小学校に通うことができるようにするのが望ましいと思います。また、交通安全は帰宅後にも重要ですが、このためには地域の理解と協力が必要です。地域・学校・家庭での協力をお願いするとともに、高齢者の方に交通安全教育にかかわっていただくことで、高齢者の交通安全教育に資することができればと思います」と話した。

川上泰秀・生駒ロータリークラブ会長

小紫雅史・生駒市長

中谷裕二良・生駒ロータリークラブ奉仕プロジェクト委員長

乾賀世子・生駒ロータリークラブ幹事

金田実・生駒警察署長

中島裕幸・東小学校校長

吉尾典子・なばた幼稚園園長

中田好昭・生駒市教育長

山口直範・大阪国際大学教授

◆幼児視界体験ゴーグル
「チャイルド・アイズ」
幼児の視界を体験する簡易スコープ（同読本付属）。子どもの目の高さは大人より低い位置にあるため、垂直視野に限りがあり、また水平視野も狭い。家庭でも、子どもの認識能力を理解し、交通安全教育を行うことが大切だ。

◆自転車乗車時の児童向けヘルメット
平成20（2008）年、道路交通法が改正され、13歳未満の児童または幼児を保護する責任のある者は「ヘルメットを着用させる努力義務」がある。生駒市内の小学校に向けて交通安全教育を目的に児童用自転車ヘルメットを寄贈した。
※Mont-bell社製
EN1078適合品

◆交通安全教育読本「ITSmoaEL いつも会える笑顔 みぎみて ひだりみて みぎみて」（B５/32㌻）
本プログラム「ITSmoaEL いつも会える笑顔」は、「Ikoma Traffic Safety Education model at Elementary Schools」の英単語頭文字だ。生駒から始まった同プログラムが広く日本中の小学校や幼稚園等で活用され、いつまでも子どもたちが笑顔で過ごせる事を願い命名した。

◆交通安全教室用パネル
ドライバーの死角を子どもたちに直感的に伝える事のできるように、専門家からの指導を受けて作成したオリジナルのマグネット式パネル（Ａ１サイズ）を製作（乗用車版もあり）。

◇企画・実施経緯

１月から企画会議を重ね、その後生駒警察署、生駒市防災安全課、専門家との協議を行い、３月には内容・構成を練り上げた。７月には小紫雅史生駒市長に活動の概略を報告し、その後、詳細な打ち合わせを重ね９月には生駒市立東小学校で交通安全教育プログラムを盛り込みモデル実施した。そして、今回の寄贈式に至る。

◇企画の背景について

「なぜ６歳・７歳児に特化した交通安全教育が必要なのか？」について、歩行者が関係する交通事故の中では、７歳児の事故が最も多いとの全国統計が掲載された記事に端を発する。死亡事故に至っては６年生に比べて８倍とのデータもあり、６、７年で命を失くす悲劇は、被害者も加害者も、まわりの人々の人生に大きな陰をもたらす。

子ども（０～14歳）の歩行者死亡率が日本の約1/45のスウェーデンでは「交通の利便性のために、交通事故により人命が失われたり、永続的な障害をこうむる人が出る事は、もはや倫理的、社会的に許されない」とする倫理的基盤が明確にされている。これが、Vision Zeroと呼ばれる新しい交通政策だ。また、スウェーデンの児童心理学者スティナ・サンデルスが子どもの認知能力について発達心理学的検討を行った上で「就学前の子どもには、交通事故を避けるために必要な状況を判断する認知能力が十分に備わっていない」とし、「子どもを交通事故から守るには、子どもを交通安全教育により交通状況に合わせさせるのではなく、子どもが交通事故に遭わずにすむ交通環境をつくるしか道はない」と結論づけた。

日本ではここまでの施策がとられていないのが現状で、子どもだけに交通安全教育を行うのではなく、大人（家庭や地域、運転者）が率先して、子どもの特性を理解し、「Vision Zero」を目指すことを目的として本企画立案に至った。

発表！

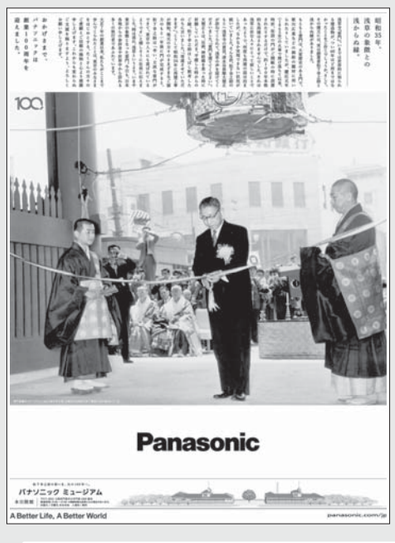
日本新聞協会　第38回「新聞広告大賞」

みなさまと共に歩んだ100年の感謝

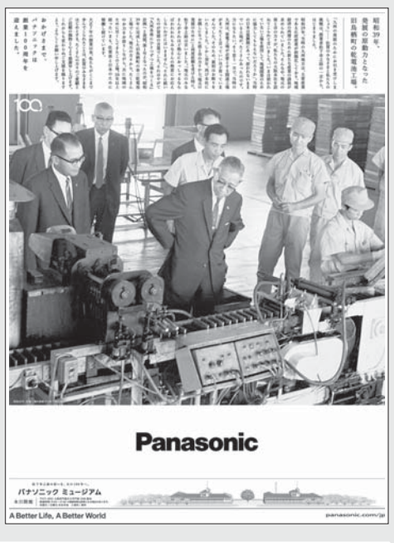
パナソニック株式会社

全国47都道府県別の広告で
感謝の気持ちを伝えました

大阪府



東京都



佐賀県

創業100周年を迎え、全国の顧客や取引先に感謝の気持ちを伝えるため、創業者・松下幸之助氏が残した言葉や各地におけるエピソードを盛り込んだ広告を47都道府県ごとに切り替えて掲載しました。
全国各地での幸之助氏の足跡を史料的価値のある写真で紹介した広告からは、消費者に対する創業者の思いや「産業を通じて地域に貢献する」という企業姿勢が伝わってきます。

1981年に創設された新聞広告賞は、「新聞広告活動の全過程」を対象に選考する日本でただ一つの表彰制度です。厳正な審査の結果、380作品の中から下記の作品を新聞広告賞に決定しました。

広告主部門

◉新聞広告賞
- 旭酒造株式会社　お願いです。高く買わないでください。
- 学校法人近畿大学　謹んで新年のお詫びを申し上げます。
- サイクルショップコダマ　サイクルショップコダマ90周年
- サントリーホールディングス株式会社　休肝日のFANTASTIC! な断り技
- 三井不動産株式会社　霞が関ビルディング竣工50周年キャンペーン

◉優秀賞
- 味の素株式会社　『ごちそうさま、平成』キャンペーン
- 阿蘇地域観光推進協議会　阿蘇からの招待状シリーズ
- エプソン販売株式会社　目指すのは、最先端技術でアナログウオッチを極める ブランド「TRUME（トゥルーム）」
- 大塚食品株式会社　ボンカレー50周年×ブラック・ジャック45周年特別タイアップ企画
- 株式会社CULEN　新しい地図
- サイボウズ株式会社　サイボウズ20周年企画「働き方改革に関するお詫び」
- サントリー食品インターナショナル株式会社　BOSS勤続25年　初代ボスジャン探しています。
- 株式会社スターフライヤー　星の飛行機の物語シリーズ
- 象印マホービン株式会社　100周年記念企業広告「象の目　象印百年物語」
- 株式会社宝島社　私たちが、経済だ。
- 株式会社ダスキン　人生100年時代に、100番、100番
- 株式会社ドミノ・ピザ ジャパン　「ドミノのド反省」キャンペーン
- 株式会社福井県教科書供給所　県内33高校の先生が選ぶ高校入学前にぜひ読んでほしい推薦図書
- ポルシェ ジャパン株式会社　ポルシェ70周年
- 株式会社ポーラ　美肌県グランプリ2017
- 本田技研工業株式会社　Me and Honda カブライダー応援企画「種子島高校　卒業おめでとう」篇

新聞社企画部門

◉新聞広告賞
- 朝日新聞社　朝日新聞社SDGsプロジェクト
- 北海道新聞社 営業局　北海道の働く女性応援プロジェクト「HATAJOラボ」
- 秋田魁新報社 営業局　第66回全日本広告連盟秋田大会記念特集「秋田犬新報」
- 静岡新聞社 営業局　静岡新聞防災企画～BuddyBox・ココカバ防災～
- 信濃毎日新聞社 広告局　父の日特別企画「家族のはなし2017」

◉奨励賞
- 東京新聞 広告局　小さい新聞「Silenced Newspaper」
- 河北新報社 営業局　子どものたより場応援プロジェクト
- 秋田魁新報社 東京支社　＃秋田の問題
- 新潟日報社 広告局　新潟・認知症啓発キャンペーン「つなぐ広げる オレンジの輪」
- 神戸新聞社 営業局　SINCE 1995

受賞作品は、新聞広告総合ウェブサイト「新聞広告データアーカイブ」でご覧いただけます。
新聞広告データアーカイブ　検索

一般社団法人 日本新聞協会　〒100-8543 東京都千代田区内幸町2-2-1 日本プレスセンタービル 電話03-3591-4407